

PRINCIPALITY OF  
**ZEON**



# MS-14S GELGOOG

PRINCIPALITY OF ZEON CHAR AZNABLE'S CUSTOMIZE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-14S CHAR AZNABLE'S CUSTOMIZE GELGOOG Ver.2.0



ジオン公国軍  
汎用モビルスーツ初期生産型  
MS-14S シャア専用ゲルググ Ver.2.0  
1/100スケール マスターグレードモデル

## MS-14S GELGOOG



ジオン公国軍  
汎用モビルスーツ初期生産型  
MS-14S シャア専用ゲルググ Ver.2.0  
1/100スケール マスターグレードモデル



# ジオン公国MS開発史

## 悲運の傑作機

**MS-14 ゲルググは、ジオン公国製MSの新たな主力機として開発された機体である。ビーム兵器を標準装備とし、一年戦争期間中に量産されたMSの中では最高の完成度を持つ機体であると評価されている。**

U.C.0079年に勃発した“一年戦争”末期に実戦投入されたゲルググは、この期間に量産されたMSの中で、もっとも優秀な機体であると言われている。地球連邦軍に先んじてMSの開発に成功した公国軍が、連邦軍の“ガンダム”を超えるべく、その威信を賭けて開発したゲルググは、あと一ヶ月配備が早ければ、歴史を塗り替えていたであろうとさえ言われている。それまでに蓄積されたMS開発ノウハウの全てを投入し、ビーム兵器の標準装備という新たな難関をクリアしたこの機体は、単独での大気圏突入こそできないものの、生産性をも含めたトータルな意味での工業製品として考えれば、実質的にガンダムを凌駕していたと言っても過言ではない。攻守共にバランスのとれた設計と、ザクを上回る汎用性の高さに加え、オプションの換装も容易で整備性も良好。ほぼ無改造で重力下での稼働も可能であった。これほどのスペックと生産性を持ちながら、実戦に投入されたのは戦争末期のため、戦局に与えた影響は微々たるものだった。また、ベテランパイロットの喪失に伴い、学徒動員兵を搭乗させざるを得なかったジオン公国の人的資源の不足など、運用面における実働状況は必ずしも万全なものではなかったのである。基本性能ではジムを大きく上回るにも関わらず、パイロットの養成や生産、配備が間に合わなかったため、大きな戦果を挙げることはできなかったとされている。ただし、優秀なパイロットのもとに適性に配備されれば、あるいは、ルウム戦役終結までの戦況において、ベテランパイロットの多くを喪失していなければ、一年戦争の結末は異なったものになっていたであろうとも言われている。

## ガンダムを凌駕するとも言われる性能

ゲルググは言うまでもなく連邦軍が開発した“ガンダム”や“ジム”を強く意識した機体である。それゆえ、開発の前提としてビーム兵器の搭載が必須とされ、その稼働に対応した高出力のジェネレーターと、高度な近接戦闘を実現する機動性と運動性を有している。

公国軍における次期主力MSの開発計画そのものは、一年戦争のかなり早い時期から存在していたものの、高度な汎用性の獲得やビーム兵器の開発の遅れなどのため、実戦に投入されたのは一年戦争末期となった。実際には、一年戦争勃発の以前から「地球進攻作戦」が想定されていたため、地球環境などに特化された“高地戦用”の機体開発と、ザクそのものの生産が優先されていたことも事実であった。計画上の次期主力MS候補となる機種の開発当初のコードナンバーはMS-11とされており、もともとはMSの運動性の向上を主眼として開発されていた別系統の機体であったが、この設計案に基づいた機体は何機かがテストベッド機として試験的に生産された。これらの試作MSは、対MS戦闘を想定した高度な白兵能力を持つ機体ではあったが、「ガンダム」の出現によって、対MS戦闘には単純な白兵、格闘能力以上のものが必要とされることが明らかになった。そのため、次期主力MSの開発計画は統廃合され、武装も含めた総合性能の向上が計られることとなった。この時期の混乱もゲルググの実戦投入が遅れた要因のひとつに上げられている。南極条約によってNBC兵器が禁止されていたため、使用可能な兵器の中では最強の武装となるビーム兵器の携行は必要不可欠であった。MSにビーム兵器を持たせることに成功した連邦軍のアドバンテージは、それほど破格の物だったのである。事実、戦争後期にゲルググに前後して開発された機体は、ビーム兵器の装備を前提に開発されているものがほとんどであり、MSであろうとMA(モビルアーマー)であろうと、なんらかのビーム兵器を装備している。公国軍にとって「ガンダム」が脅威であったのは、この機体が圧倒的な機動性と戦艦並みの破壊力を併せ持っていたためである。そして公国軍の技術陣は、“ガンダムを超える”MSとして“ゲルググ”を完成させたのである。

MS-06R-2



MS-14B

## MS-14S ゲルググ

一年戦争末期の傑作機であるMS-14 ゲルググは、一朝一夕に誕生した訳ではない。それは様々な曲折の後に達成された物であり、また、それゆえゲルググはゲルググとして存在できたということもできる。

ゲルググの開発ベースとなった機体は、MS-06R-2や06R系の最終型とされるMS-06R-3、あるいはMS-11などであった。ゲルググは、それらの開発に従事していた技術者たちを糾合して開発された機体であり、公国軍のMS開発担当官が直接指揮をとって開発に当たっていた。実際、MS-14の基本的なバイオニクスはZEONIC社のものだが、装備されるスラスター類はZIMMAD社の技術が援用されており、MS用の武装を開発していたMIP社なども、ビーム・ライフル開発の際にMS開発局に編入され、同系統の機体を何機種かOEM生産している。さらに、各製品の調達の都合によって、各メーカーは独自のライセンス生産も行うようになっていった。この機体は各部分が独立した構造となっていたため、生産自体もブロックごとに行うことが可能だった。だからこそ、生産可能なユニットは先行して部品供給がなされ、短期間で本格的な量産にこぎ着けることができたのである。

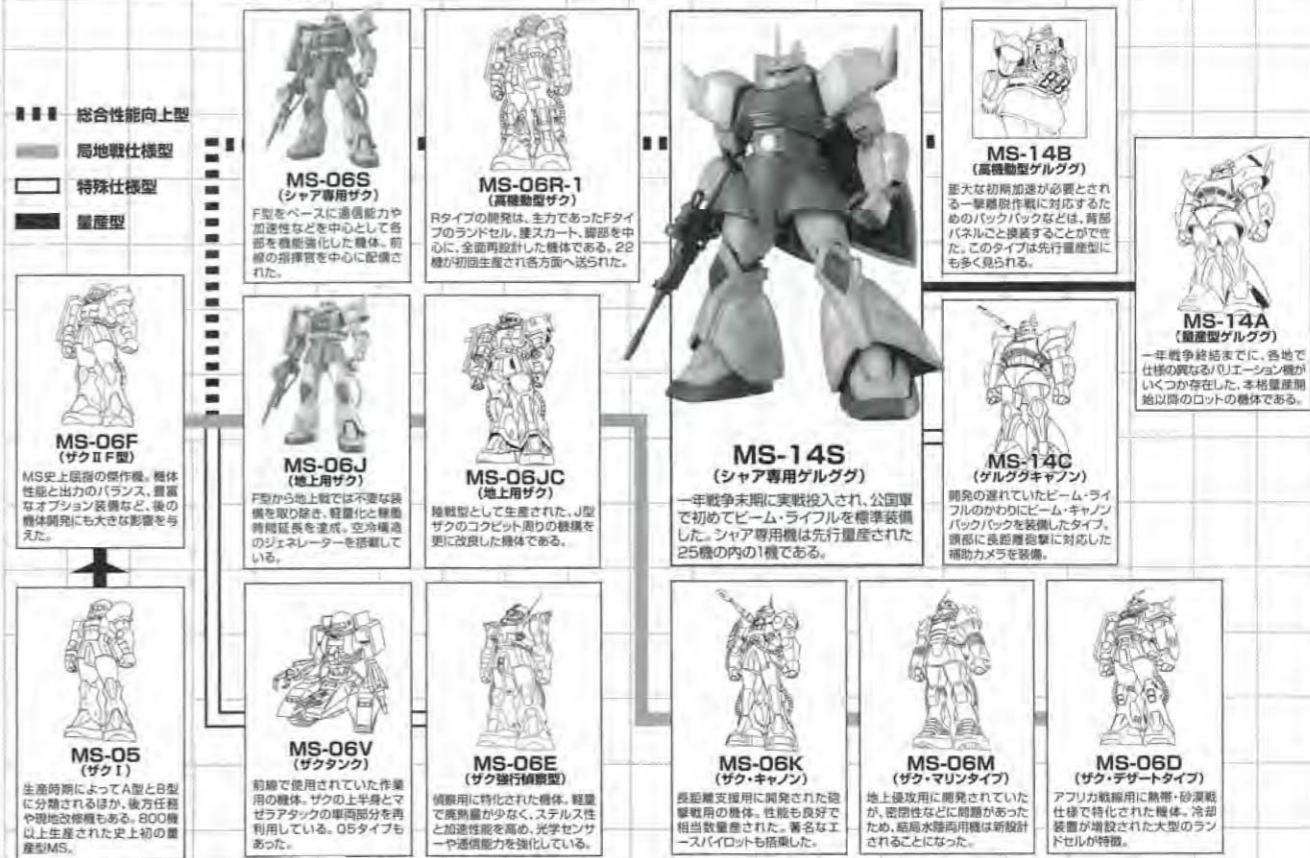
先行量産された25機のMS-14は当初、開発コードに従って試作機を表す“YMS-14”と呼ばれていた。そして、オプションの高機動型ブースターパックを装備したタイプのは「MS-14B 高機動型ゲルググ」とされ、ノーマルな機体と区別されていた。さらに、開発の遅れていたビーム・ライフルの代わりに、水陸両用MSのビーム砲の技術を転用したバックパック方式のビーム・キャノンに装備した「MS-14C ゲルググキャノン」なども当初から開発計画に盛り込まれていた。そして、エースパイロットを中心に配備されたこともあって、基本仕様のままの機体は、B、Cタイプと峻別するため、「MS-14S 指揮官用ゲルググ」とされた。シャア・アズナブル大佐が受領した機体は赤く塗装されていたため、かつての乗機であった06Sに似たとも言われているが、これは、複数の部局が開発に携わっていたために便宜上付けられた呼称であった。機体によっては、担当技術者が複数のプロジェクトに関わっているような事態が頻発したために起こった混乱でもあったようだ。実際には、先行量産されたB、C、S型も、量産機のA型も、全てが“MS-14”なのである。

ゲルググは、ザクと同じく、それ以上の汎用性を発揮するよう設計されていたため、最小限のオプションで多様な戦術に対応できた。基本的にはノンオプションで最高水準の性能を発揮するが、地上への投入や特殊な任務への対応を考え、腕部には補助推進機としてのジェットエンジンが装備されていた。そして、膨大な初期加速が必要とされる一撃離脱の作戦などに対応するための高機動型のバックパックなどは、背部パネルごと換装することができた。例えばザク系の機体では、この程度の変更でも内装部品の交換や多岐にわたる煩雑な微調整が必要だったが、ゲルググはほとんど無改造でこれらのオプションを装着した上で稼働することができたのである。

ちなみに、開発が戦争末期であったにも関わらず、ゲルググには多くのバリエーションが存在する。これは、基礎設計として各部パーツやモジュールを分散して生産する事が可能だったためとも言われている。例えば、元々は、ゲルググとの競争意識で敗れたMS-15 キャノン系の機体生産を見越していた工廠などは、スペック的に併用できるパーツを流用するなど、ある程度の技術力と規模さえあれば、それぞれのパーツをベースとして独自の機体に組み上げることさえ可能だったと言われている。また、MS-14とMS-15双方の長所を融合させ、公国軍のMS開発局からMS-17の開発コードを与えられていた別の機体の計画もあり、その機体のための部品の供給計画を先行して推進していた工廠もあったと言われている。そのせいで、一部完成していたMS-17用の生産ラインを流用して建造されたゲルググなども何機種か存在すると言われている。そして、終戦を迎えて以降も、連邦で、あるいは公国軍残党の手によって、ゲルググの系譜の発展は途切れる事なく続いて行ったのである。

# MS開発系譜 -ゲルググ その成功と発展-

ゲルググは開発当初から各種のオプション装備が想定されていた。基本的にはノンオプションで最高水準の性能を発揮するが、地上への投入や特殊な任務への対応を考え、高機動型のBタイプやキャノンパックを装備したCタイプなどがバリエーション機として開発段階から想定されていた。後に建造された更に別タイプのものも、慣例的に末尾のナンバーや記号で判別されるようになっていった。Bタイプの機体などは、J・ライデン少佐などが搭乗したことも知られている。一年戦争末期の傑作機MS-14 ゲルググは、先行量産型の生産に前後して、いわゆるAタイプが83機、Bタイプが67機、Cタイプが15機生産され実戦に参加していたとされる。ただし、これらの数値はいくつかの資料の平均値であり、終戦時、122機分に相当するCタイプの未組み立てパーツが存在すると記録された資料も存在する。特に、ビーム・ライフルの搭載を見送り、分散して作られたパーツをベースとして独自の機体に組み上げた工廠もあったため、開発が戦争末期であったにも関わらず、多くのバリエーションが存在するほか、ジオン残党が保有していた同系機も相当数に上るのである。



ZEONIC MS-06 Line Development genealogy

## 脚部スラスター

06R系の直系ともいえるゲルググは、R系と同様、脚部全体を巨大なバーニア・スラスター・ユニットと考えている。また、06R2型である機動データをもとにして、さらなる高性能化も図られている。ゲルググの脚部に装備されるバーニアスラスターユニットは、当初、MS-11用に開発されていたZEONIC社製のものがそのまま流用される予定だったが、実際には06R2型に使用してから機体が完成するまでの間に改良が加えられることになった。スラスター総推力の向上のため、腰部スカートアーマーに09R系のZIMMAD社製バーニアのノウハウの採用が決定し、改めて06R3型用のユニットが先行試作機として共同開発されることとなったのである。このことから、ゲルググは事実上、公国軍のMS開発のノウハウを総動員して開発された機体だといえることができる。また、06R3型は、ゲルググの実質的な別タイプと目される事もあるが、元々は4機しか建造されなかった06R2型のうち1機をテストベッドとして改装したものであるといわれている。06R2型が「外観こそザクII」にそっくりだが中身は全く別物」とされつつも、あくまで「ザクII」でありつづけるのとは対照的であると言えるだろう。

## ボディユニット&メインジェネレーター

ゲルググのボディモジュールには、ザクとの最も大きな差異が存在する。まず、コクピットブロックと主動力炉の配置が抜本的に見直され、更なる機能向上が実現されている。このボディモジュールの基本構造は、連邦製のRXタイプに倣い、大きく三つのブロックに分割され、機体の運動性を高めるためにも有効であったが、実際には、パイロットの生存性を高めるために採用された構造であった。さらに、このボディの分割構造は、生産性の面からも歓迎され、これによってゲルググは、各部位ごと生産拠点を分散させて生産することが可能となり、「工業製品」としても非常に優秀なものとなったのである。ジェネレーターは水陸両用MSに採用された形式の派生型を基本とし、それまでのMSとは桁違いの出力を持っている。さらに、併せて新開発の冷却装置も開発され、ビーム兵器の連続使用や複数の同時稼働を可能としている。また、ゲルググは、ザクが持つ汎用性を、より容易に獲得することも目的としていた。各部のユニット化はその

最たるもので、ザクの運用によって必要性が明らかになった各種オプションの換装なども、初期設定の段階で可能なように設計されていたのである。逆に、背部はランドセルや固定式のバーニアノズルが廃され、用途に応じたバックパックを適宜換装する構造が採用された。これは、特に06R系の開発過程におけるノウハウを積極的に採り入れた結果、背部にメインスラスターがなくとも基礎的な機動性の確保が可能になったものなのである。実際、ビーム兵器開発の遅れを補うCタイプのキャノンパックおよび高機動型Bタイプ用のスラスターパックなどは、ほとんどの「ゲルググ」との互換性を確保している。さらに、背面がフラットな構造になった事で、大型シールドの携行など、オプション装備の、より柔軟な運用が可能となった。例えば、防弾~砲撃戦時に、背部に装備した機体背面の耐弾性を向上させ、近接戦闘時にはマウントアームを介して腕部に装着し、防弾および白兵対応装備とするなど、戦闘の自由度を広げている。



**△ 注意**

**必ずお読みください**

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れてください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーをしますので別にご用意ください。

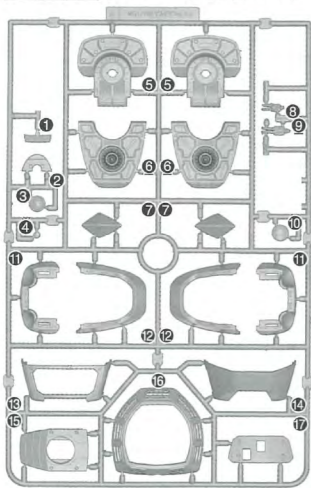
**〈組み立てる時の注意〉**

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

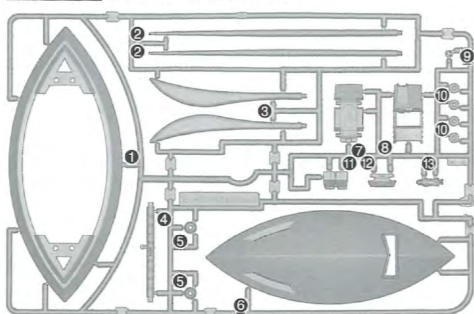
**パーツリスト**

（×印は使用しないパーツです。）

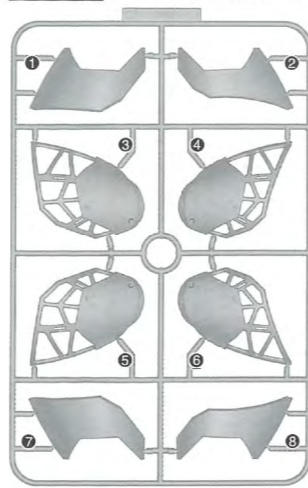
**Aパーツ** (スチロール樹脂: PS)



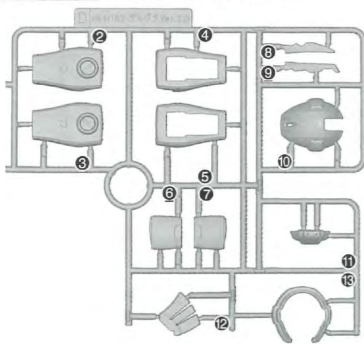
**Bパーツ** (スチロール樹脂: PS)



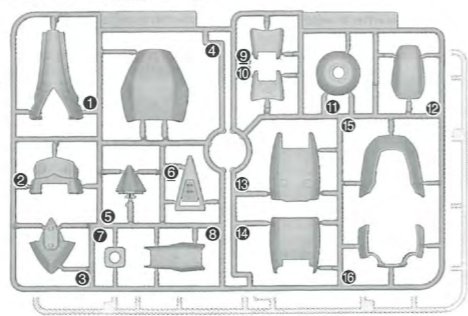
**Cパーツ** (スチロール樹脂: PS)



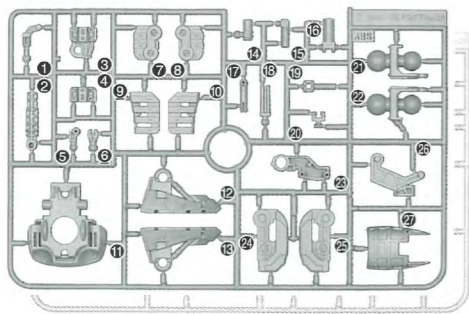
**Dパーツ** (スチロール樹脂: PS)



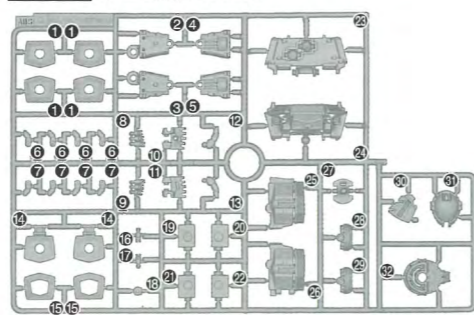
**Eパーツ** (×2)  
(スチロール樹脂: PS)



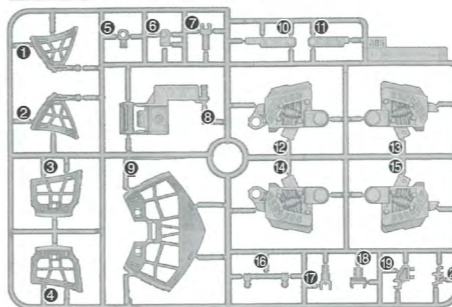
**Fパーツ** (×2)  
(ABS樹脂: ABS)



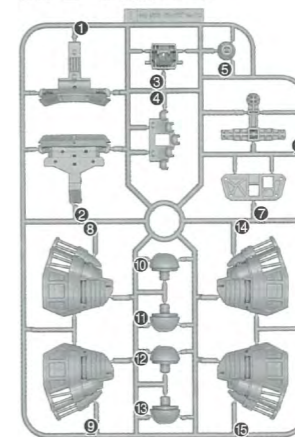
**Gパーツ** (ABS樹脂: ABS)



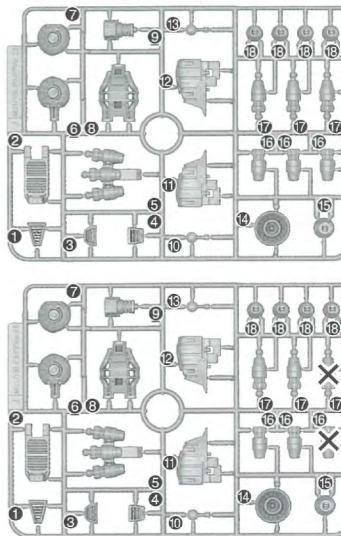
**Hパーツ** (ABS樹脂: ABS)



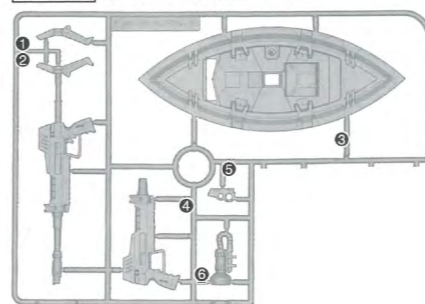
**Iパーツ**  
(スチロール樹脂: PS)



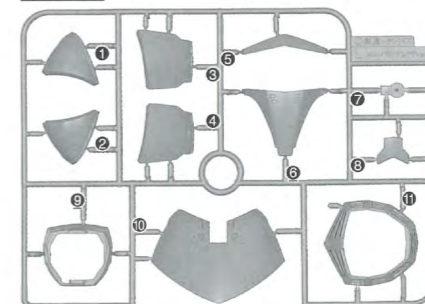
**Jパーツ** (×2)  
(スチロール樹脂: PS)



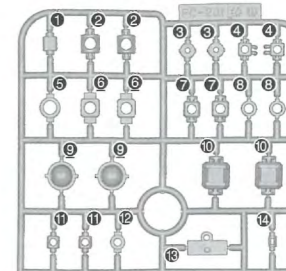
**Kパーツ** (スチロール樹脂: PS)



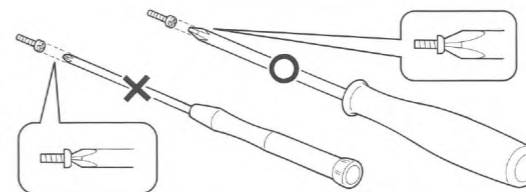
**Lパーツ** (スチロール樹脂: PS)



**〈PC-201〉**  
(ポリエチレン: PE)



※ビスに合ったドライバーをご使用ください。サイズの合わないドライバーを使用されますとビスを破損する場合があります。

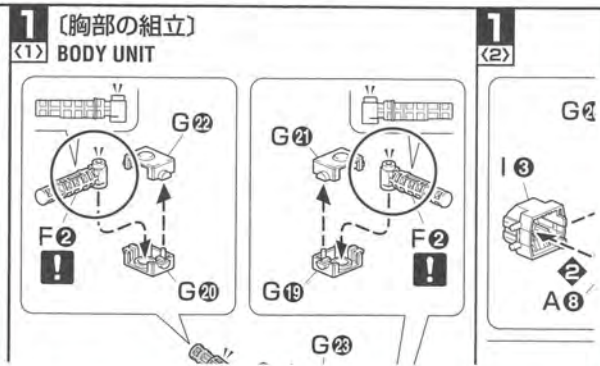


- マーキングシール.....1枚
- ガンダムデカール.....1枚
- ビス.....1本

# 組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



## ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。



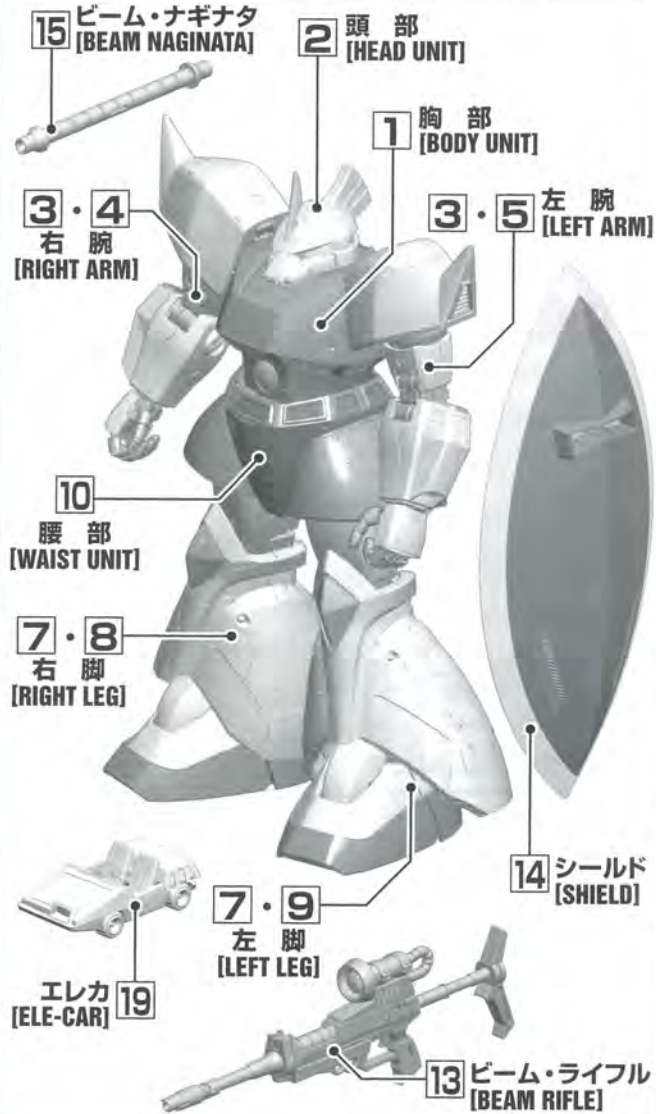
②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。



説明書をよく読んで完成させましょう

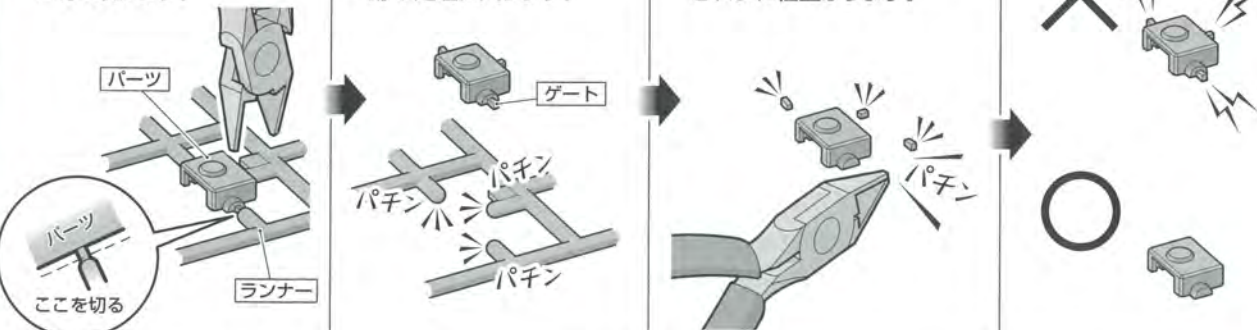


## パーツの切り取りかた

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

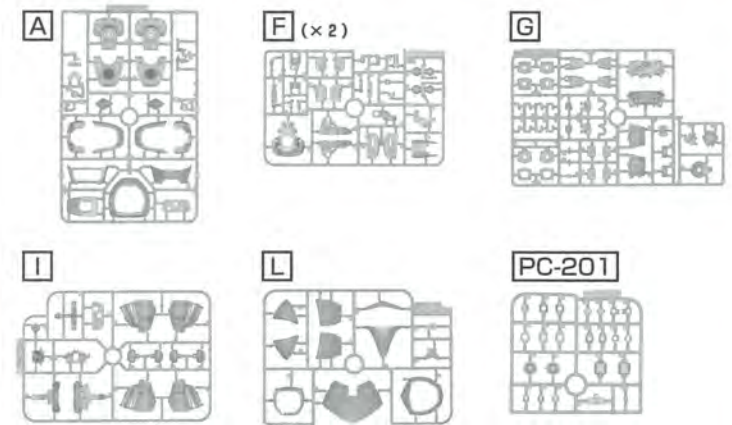
②パーツを切り離して持ちやすくしたところでゲート跡の処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



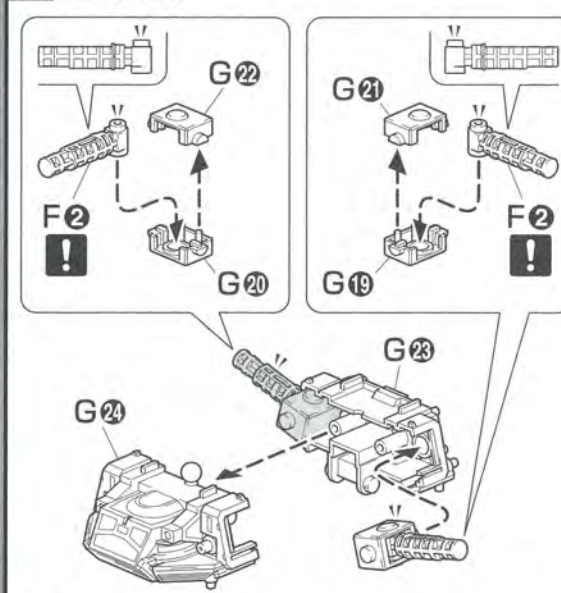
## 1 BODY UNIT

・組立1で使用するパーツ

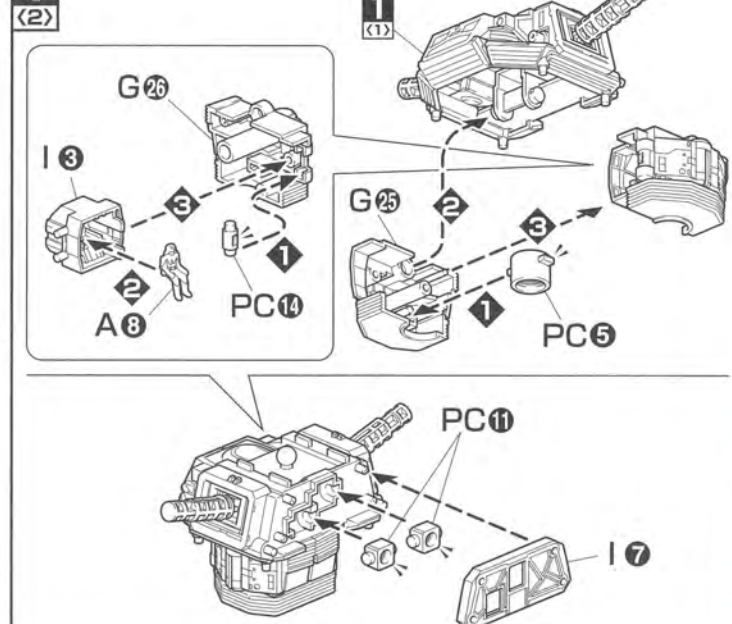


## 1 (胸部の組立)

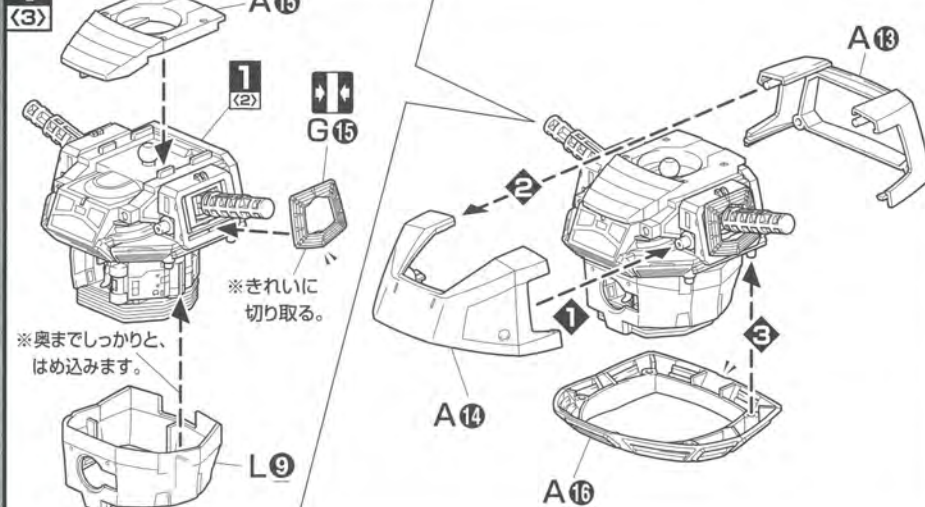
1 (1) BODY UNIT



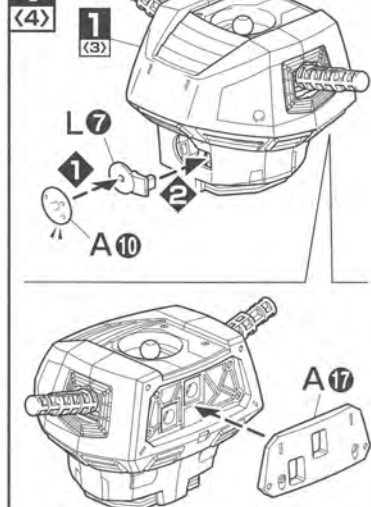
## 1 (2)



## 1 (3)



## 1 (4)

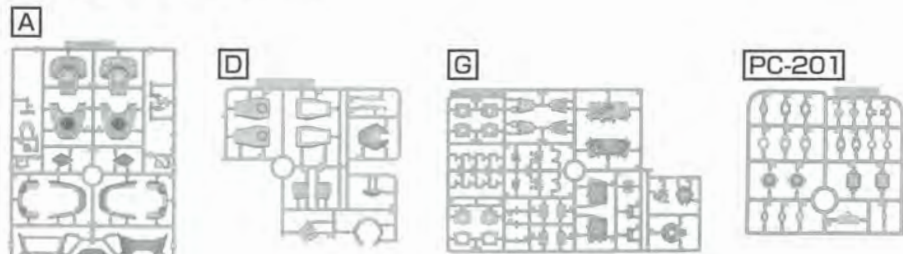


※組立図中の記号説明  
 両側に同じパーツを取り付ける  
 向きに注意して組み立てる

## 2 HEAD UNIT

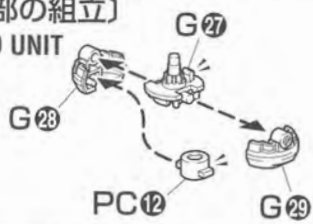


・組立2で使用するパーツ

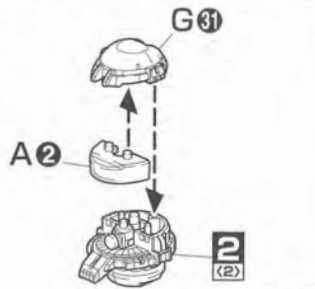


・マーキングシール

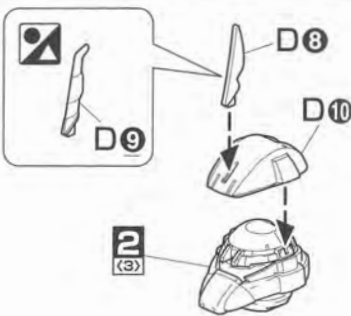
### 2 (1) 頭部の組立 HEAD UNIT



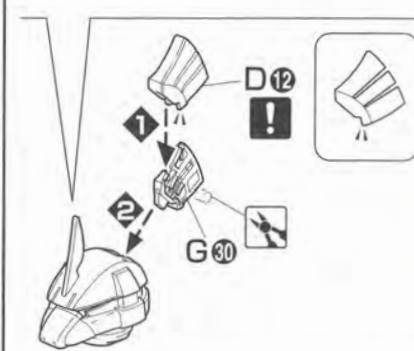
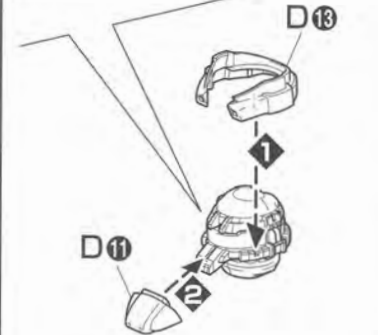
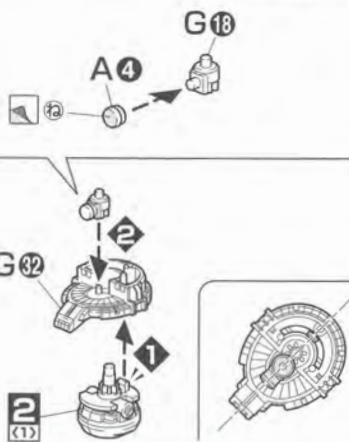
### 2 (3)



### 2 (4)



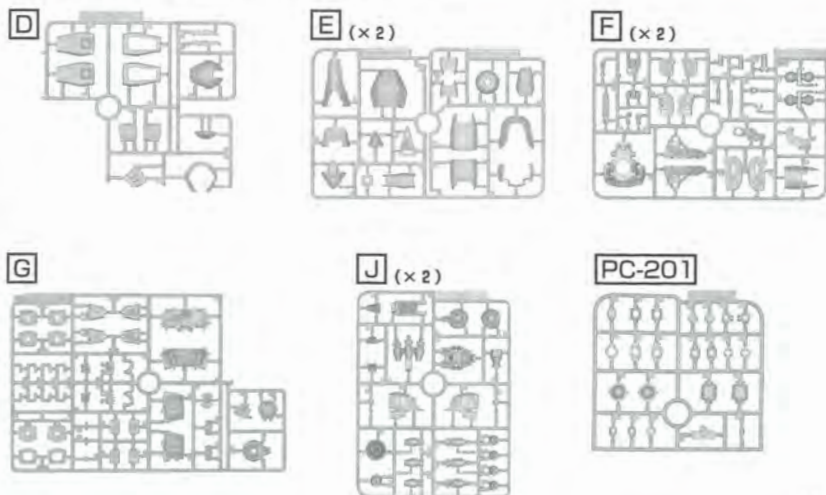
### 2 (2)



## 3 4 5 6 ARM UNIT

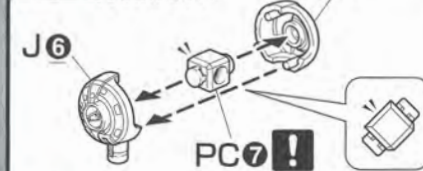


・組立3・4・5・6で使用するパーツ

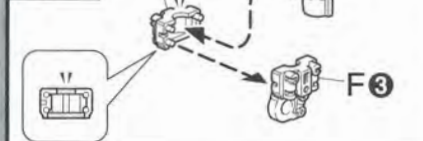


・ビス

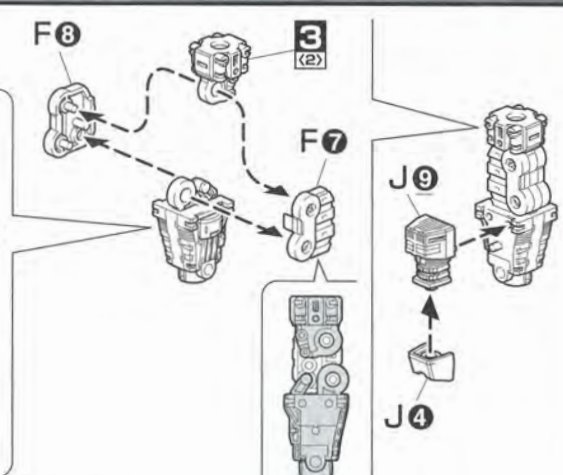
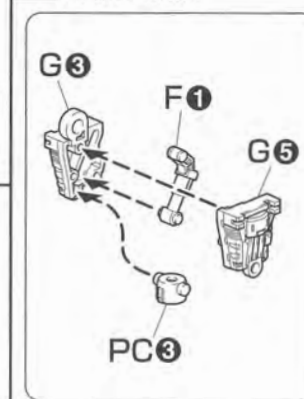
### 3 (1) 腕の組立 ARM UNIT



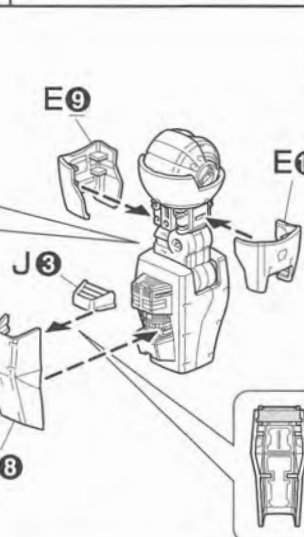
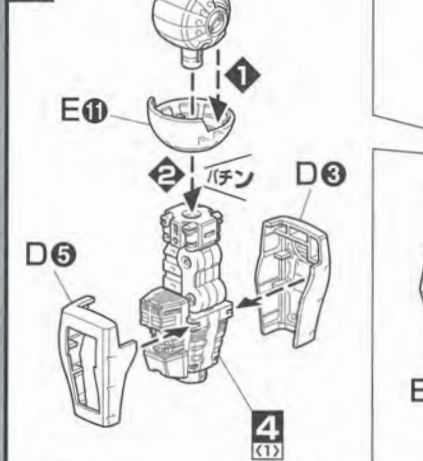
### 3 (2)



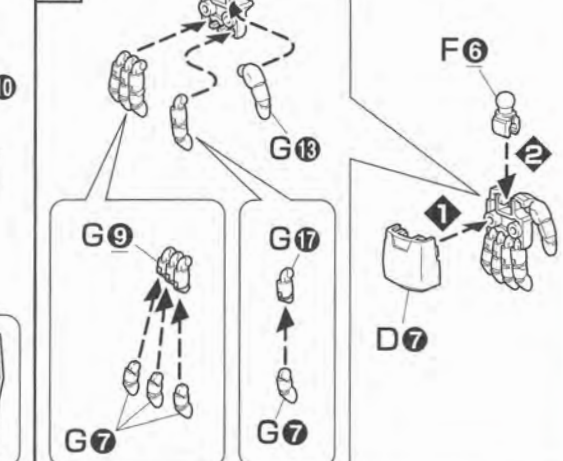
### 4 (1) 右腕の組立 RIGHT ARM



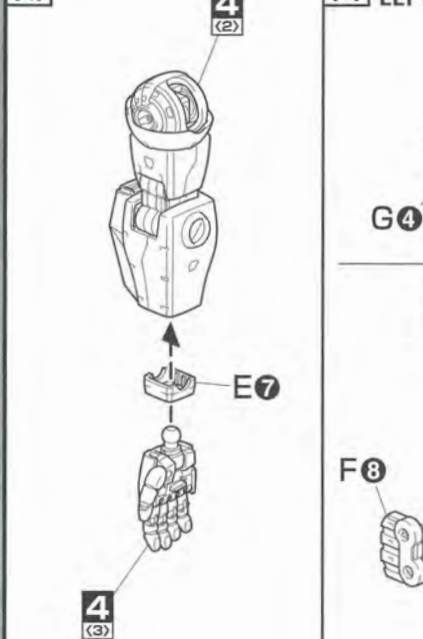
### 4 (2)



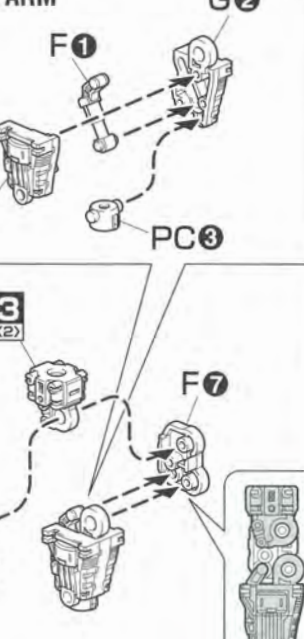
### 4 (3)



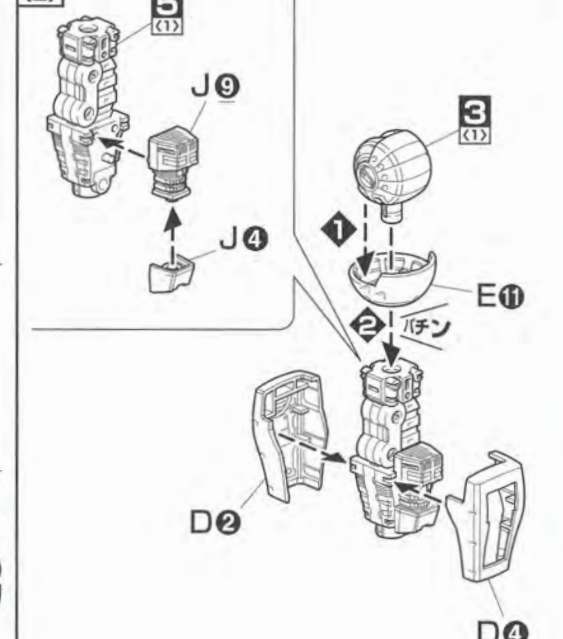
### 4 (4)



### 5 (1) 左腕の組立 LEFT ARM



### 5 (2)



# MS Tracks in U.C.0079



**In the arsenal of Granada (グラナダの工廠にて)**  
 U.C.0079年11月中旬。月の裏側にあるグラナダの工廠から、公国軍の次期主力MSであるゲルググが搬出されようとしていた。YMS-14として建造されていた先行量産型がロールアウトしたのは10月に入ってからだが、ビーム兵器の生産ラインが稼働し始めたのは11月下旬だったと言われている。つまり、ゲルググの実戦への投入は、機体の完成からかなり間を置いていたことになる。無論、中途半端な状態で実戦配備しても、十分な戦果を挙げるかどうかは疑わしいし、逆に敵に余計な情報を与えかねない。とはいえ、最も効果的な時機を計る必要はあったにせよ、ゲルググの実戦配備には、それ以外の思惑も多分に影響していたようだ。「ビーム・ライフルの生産も間もなく軌道に乗るでしょう。さすれば連邦のMSなど敵ではありません」「歩留まりが安定せねば話にならない。ビームバックの方はどうなの？」技官の説明を聞きながら、キシリアはオデッサ以降の戦略を思索していた。「まずは手だれに扱わせるがよからう。仕上がり次第、コレヒドールとテキサスにな」「心得ております」宇宙での決戦を間近に控え、キシリアは宇宙の状況も変わるだろうことを予感していた。

## a voice called be awake... (目覚めよと呼ぶ声があり...)

U.C.0079年12月下旬。ソロモンは陥落し、連邦軍の橋頭堡コンペイトウとされてしまった。だがしかし、公国軍には文字通りの秘密兵器があった。NT(ニュータイプ)専用MA(モビルアーマー)エルメスである。「空母ド羅斯の主力隊はグラナダとア・バオア・クーの線上に展開させた。大佐は私の遊撃隊に入り戦闘指揮を取れ」「はっ」キシリア直属の遊撃隊に組み込まれたシャアとララァは、それぞれゲルググとエルメスを駆って再びコンペイトウの周辺宙域を伺う。「味方がやられたな。呼んでいる...なんだ？」合流ポイントで襲撃された僚艦に加勢すべく、マグネットコーティングを施されたガンダムで出撃したアムロは、馴染みの無い気配を感じていた。「...シャアと、もうひとつはなんだ？」その時、アムロの眼前に赤いゲルググが現れる。「シャア、もらったぞ」「大佐、退いて下さい。危険です!」「ガンダム、昨日までのガンダムとまるで違うぞ」幾度かの応酬の後、シャアはガンダムの挙動の変化に気付く。「うおお、ガンダムッ!」「大佐を傷つける!!」必殺の間合いでビーム・サーベルを一閃させたガンダムがゲルググの肩口に斬りつける。「チィッ!!」矢継ぎ早に責め立てるガンダムの猛攻に、シャアは焦燥を感じていた。



## PAINTING (塗装)

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。  
 ※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

### MS-14S ゲルググ Ver.2.0 指定色

腕、脚などの塗装色 ホワイト(50%) + レッド(25%) + イエロー(20%) + ブラック(5%)	つま先などの塗装色 ミッドナイトブルー(100%)	ナギナタのグリップ部の塗装色 イエロー(90%) + カーキグリーン(5%) + ブラウン(5%)
胴などの塗装色 レッド(60%) + ホワイト(30%) + ブルー(10%)	シールド表の塗装色 インディブルー(45%) + ホワイト(30%) + レッド(15%) + ブラック(10%)	コクピットハッチの塗装色 ピンク(100%)
シールド裏などの塗装色 インディブルー(40%) + ホワイト(25%) + ブラック(25%) + レッド(10%)	シールドフチの塗装色 イエロー(45%) + ホワイト(30%) + ウッドブラウン(25%)	パーニア基部の塗装色 シルバー(100%)の上から + クリアレッド(100%)
シールドフチの塗装色 イエロー(45%) + ホワイト(30%) + ウッドブラウン(25%)	モノアイなどの塗装色 蛍光ピンク(100%)	

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。 ※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

### シャア・アズナブル

ヘルメット等ホワイト部の塗装色 ホワイト(100%)	バイザーの塗装色 エアクラフトブルー(70%) + ミディアムブルー(30%)
肌色の塗装色 はた色(100%)	軍服イエロー部の塗装色 オレンジイエロー(100%)
軍服レッド部の塗装色 モンザレッド(100%)	軍服ダークブルー部の塗装色 ミッドナイトブルー(100%)

### エレカ/ララァ・スン

エレカ本体の塗装色 サタデイイエロー(80%) + カーキグリーン(20%)	シートの塗装色 スカイ(100%)
リアバンパー等の塗装色 スカイ(65%) + サンデイイエロー(35%)	ララァ・スンの肌の塗装色 はた色(95%) + ウッドブラウン(5%)
ヘッドライト等の塗装色 ホワイト(90%) + イエロー(10%)	ララァ・スンの髪部の塗装色 インディブルー(85%) + ブラック(10%) + レッド(5%)
テールライトの塗装色 シャインレッド(100%)	ララァ・スンの肩の塗装色 ホワイト(90%) + イエロー(10%)
ハンドルの塗装色 レッドブラウン(100%)	ララァ・スンの腕部の塗装色 オレンジイエロー(100%)
タイヤの塗装色 ミッドナイトブルー(100%)	

## ワンポイントステップ ~One point step~

### スミ入れてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れるだけで見違えるような仕上がりになります。



[before] [after]

## MS-14S GELGOOG MECHANISM

初期生産型25機のうちの1機と言われている、シャア専用ゲルググの持つポテンシャルの高さは連邦のRX系をも越えると言われている。



▲ 肩部アーマーは関節の保護のみならず、サブスラスター・ユニットとしても設計されている。



▲ 腰部スカート・アーマーに配されたスラスターは、大気圏内での運用も考慮に入れハイブリット化が図られている。



▶ O6R系の機動力を向上させたスラスター・ユニットは、空間戦闘能力の大幅アップを実現している。



MODEL NUMBER : MS-14S  
 Height : 19.2m  
 Weight : 42.1t  
 Full weight : 73.3t  
 Generator output : 1,440kw  
 Armor materials : super hard steel alloy

▶ 指揮官機は頭部にブレードアンテナが装備されており、通信系のモジュールも強化されている。



▶ アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるように設計されている。



▶ 膝アーマー部は、インナーフレームに連動したスライド機構が組み込まれ、スムーズな可動が実現されている。



▲ モノコック構造とユニット化されたパーツ構成により汎用性、メンテナンス性に優れ、多重構造による装甲の強化が図られている。

## Weapons MS-14S GELGOOG Armament



▼ ビーム・ナギナタは機体各部、シールド裏面のウエポンラッチにマウントが可能。



▲ 機体背面からマウントアームが展開し、前面にスライドすることにより“引き出し”のアクションを実現。

**5** (3) **5** (2) **5** (4) **5** (5) **5** (3) **5** (4)

Parts shown: E10, E9, J9, E8, G10, G12, G16, G8, G6, F6, D6, E7, ビス (Screw).

**6** (1) x2 **6** (1) x2

【肩アーマーの組立】  
SHOULDER ARMOR

Parts shown: E6, J1, J8, PC4, J2, E4, G14.

※きれいに切り取る。

**6** (2) **6** (1) x2

【上半身の完成】  
UPPER BODY

Parts shown: G1.

2で作った頭部  
6で作った肩アーマー  
4で作った右腕  
1で作った胸部  
5で作った左腕

**789** LEG UNIT

・組立7・8・9で使用するパーツ

Parts shown: A, C, E (x2), F (x2), H, I, J (x2), PC-201.

**7** (1) x2

【脚部の組立】  
LEG UNIT

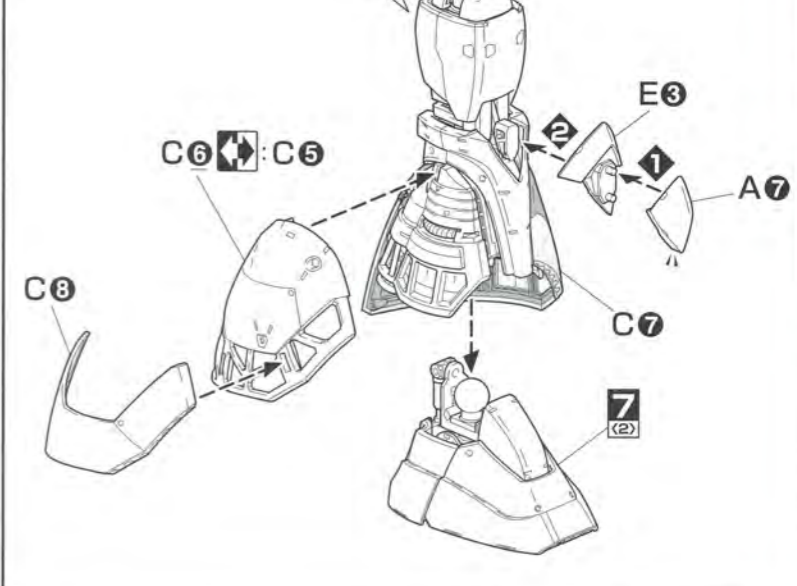
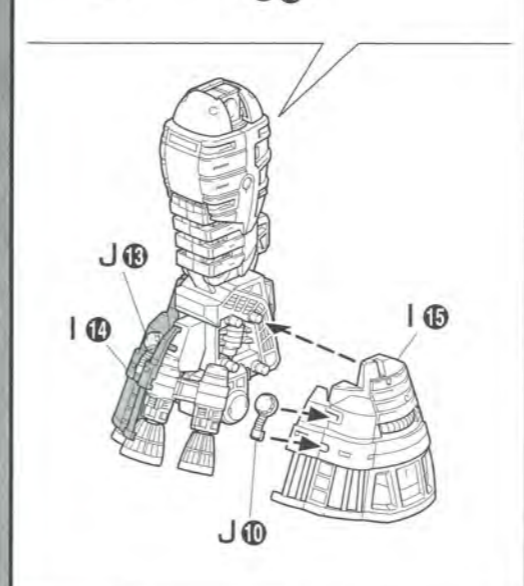
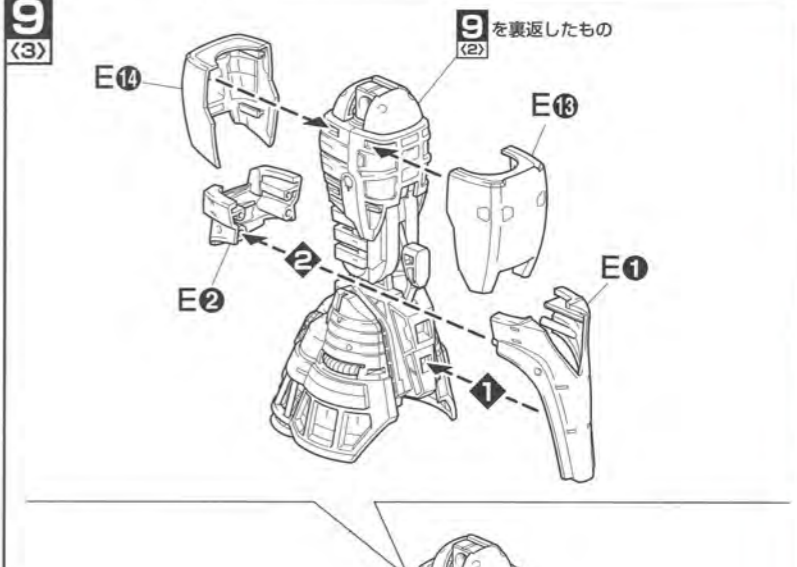
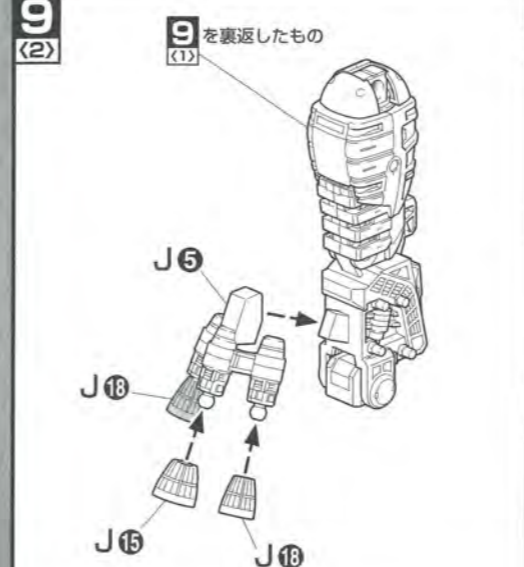
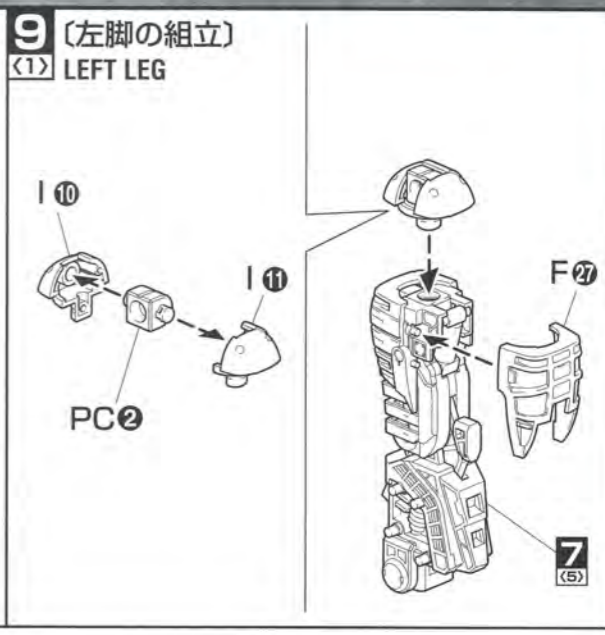
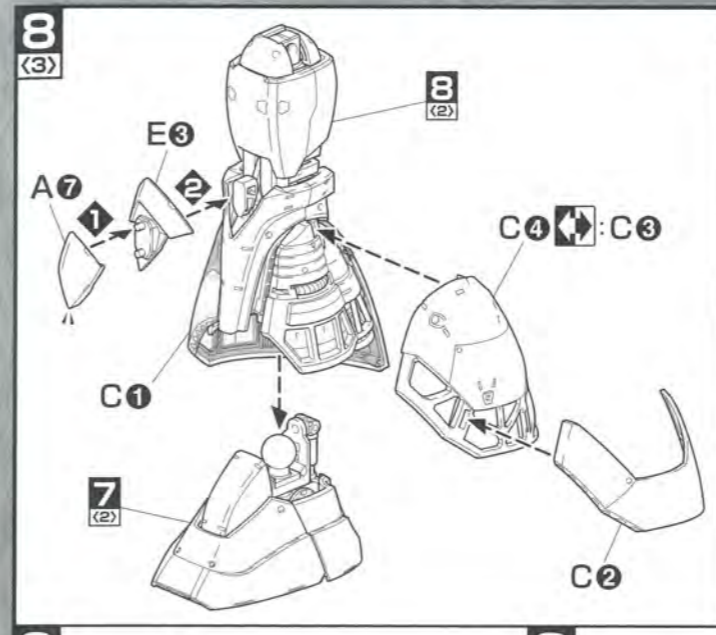
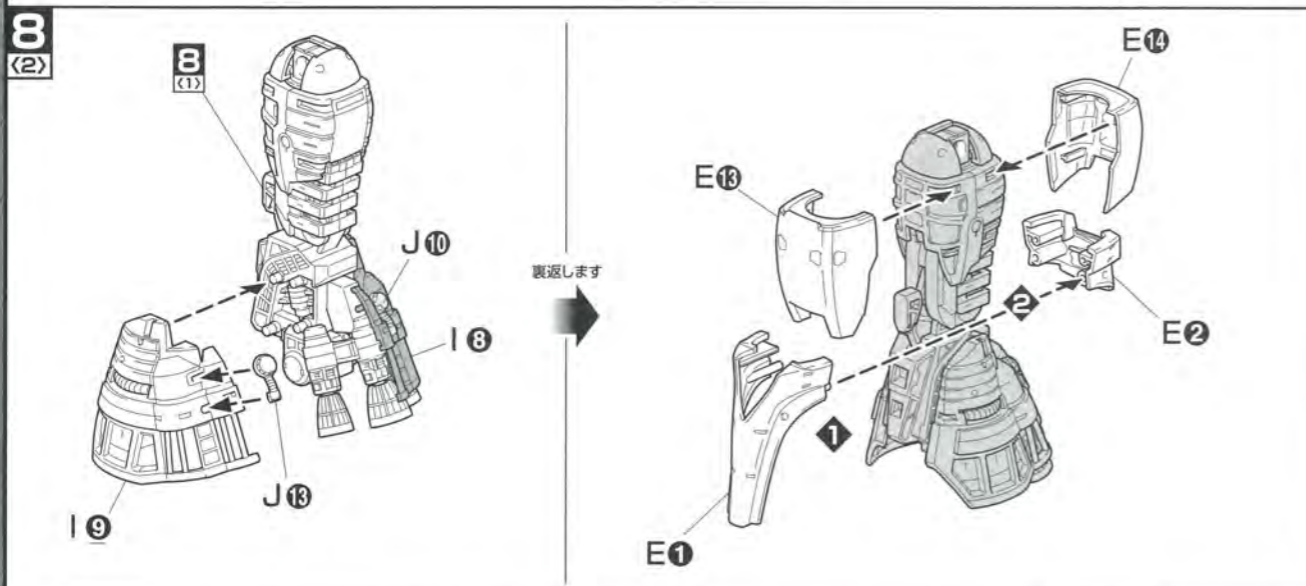
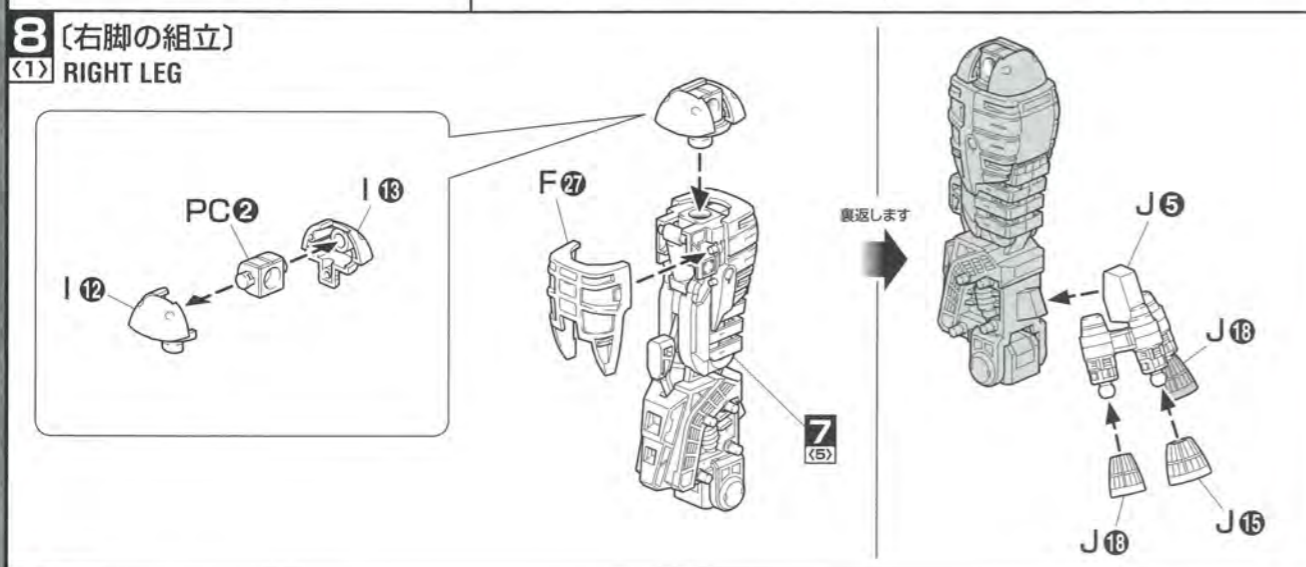
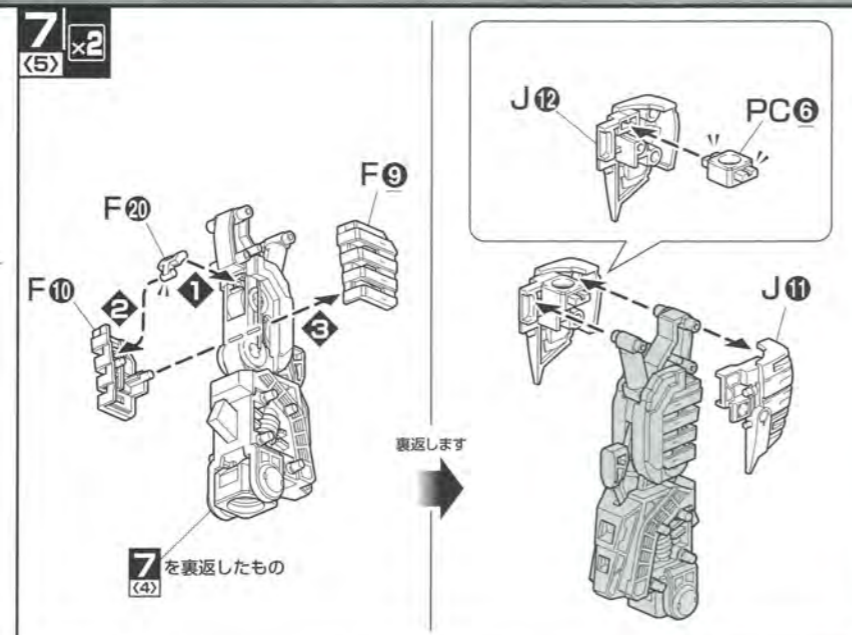
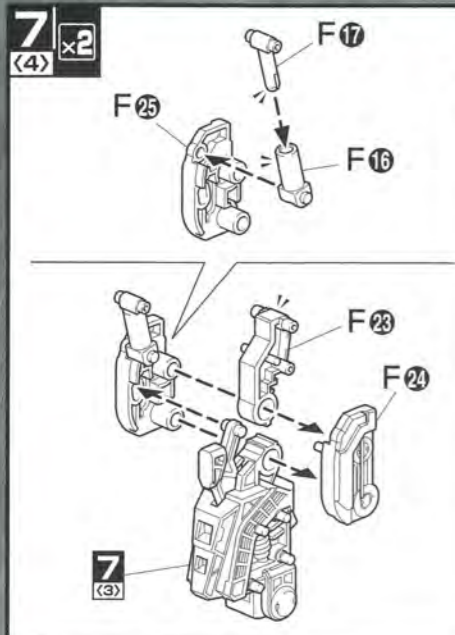
Parts shown: J14, A5, PC9, F11, F12, F18, F13, F14, A12, A6.

裏返します

※奥までしっかりと、はめ込みます。

**7** (2) x2 **7** (3)

Parts shown: F21, F22, F15, F19, A11, E12, E15, E16, H15, F26, H14, PC10, H12, H13, PC10.

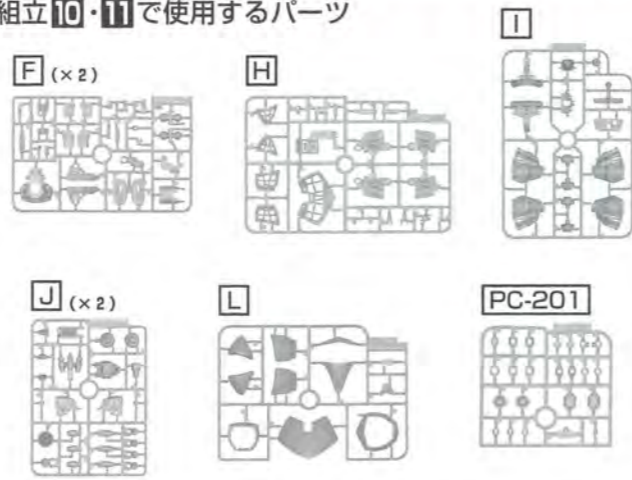




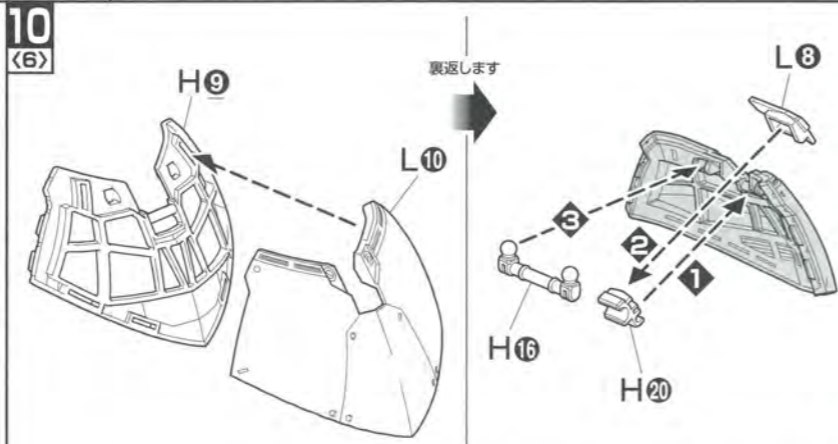
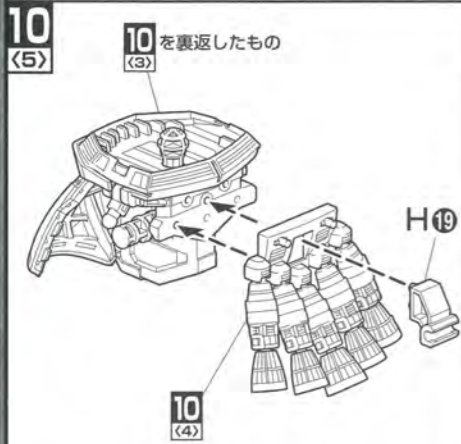
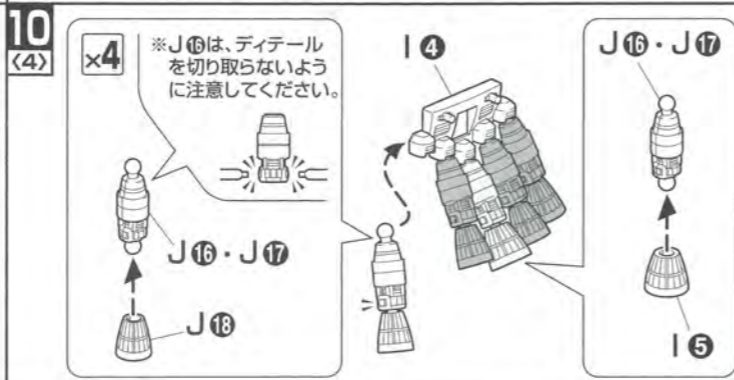
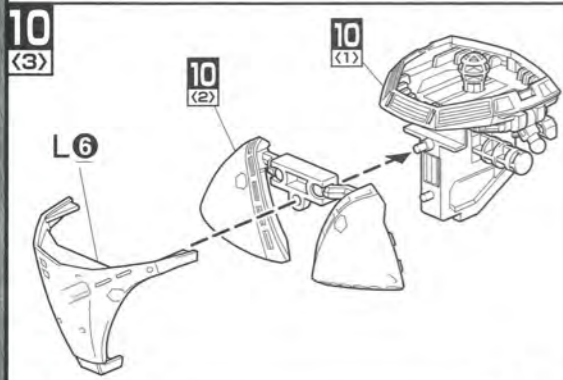
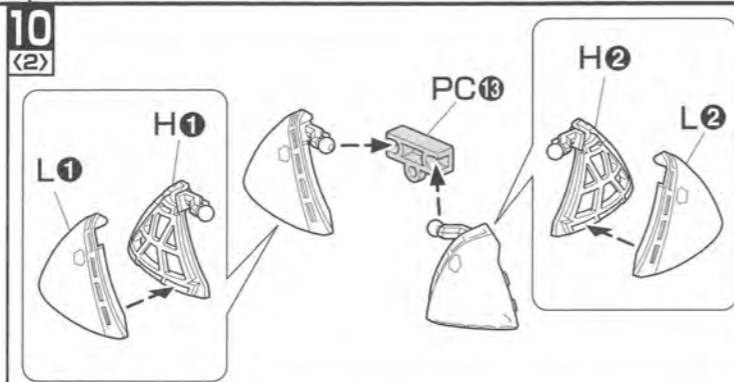
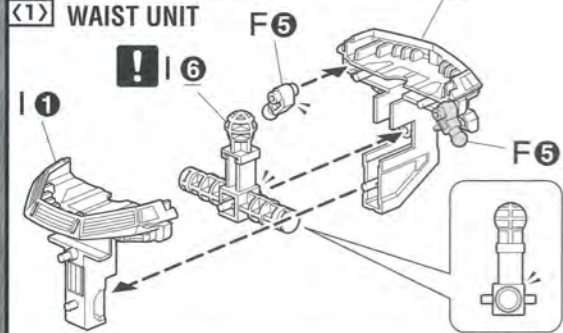
# 10 11 WAIST UNIT



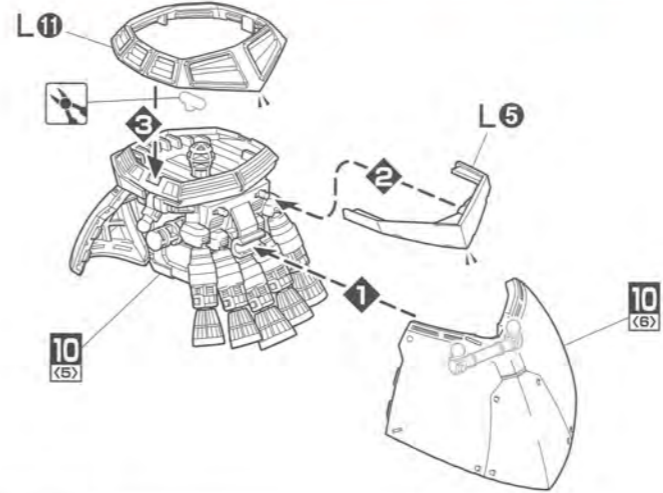
・組立10・11で使用するパーツ



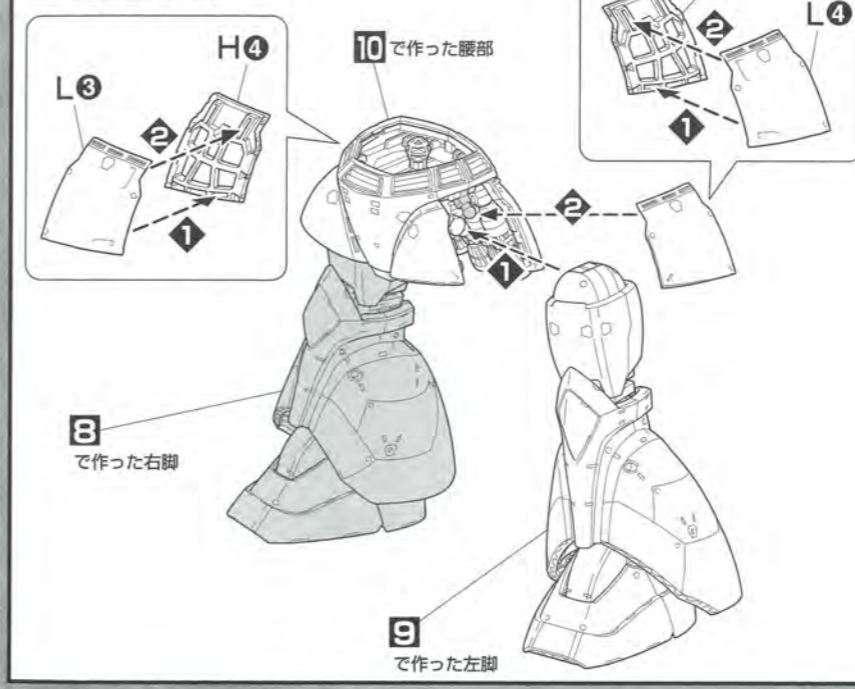
## 10 (腰部の組立) WAIST UNIT



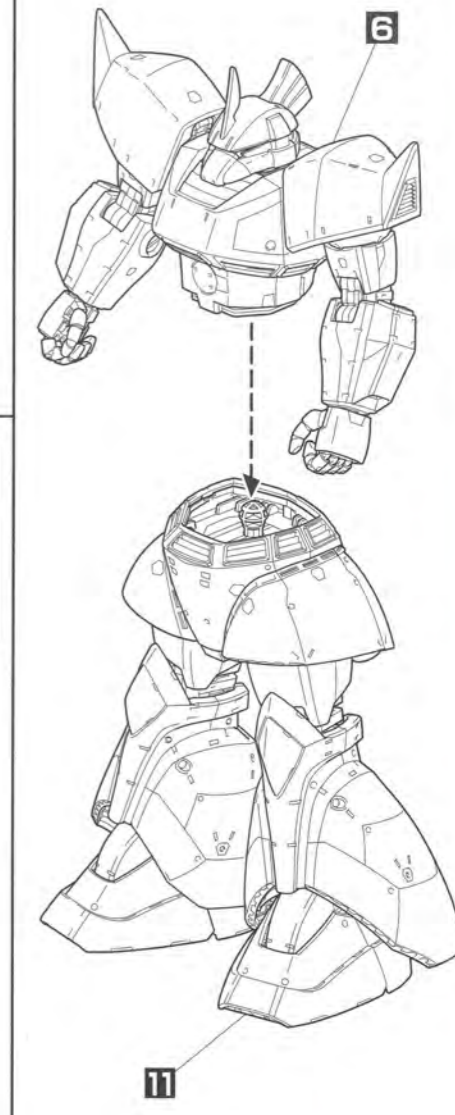
## 10 (7)



## 11 (下半身の組立) LOWER BODY



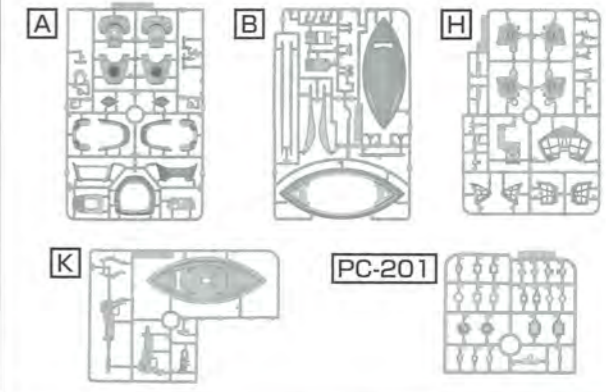
## 12 (完成) FINAL ASSEMBLY



## 13 14 15 16 19 20 WEAPONS

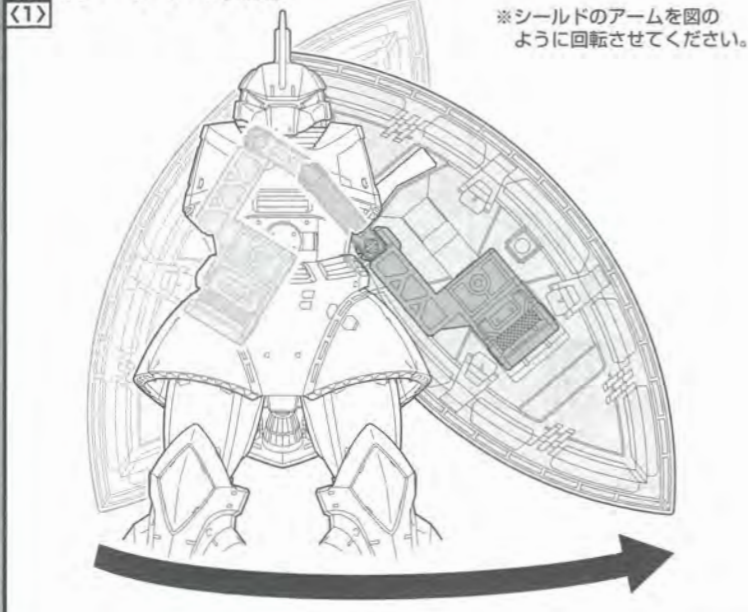


・組立13・14・15・16・19・20で使用するパーツ

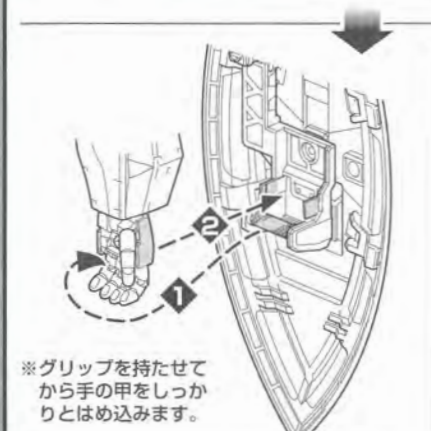




17 <シールドの装備>



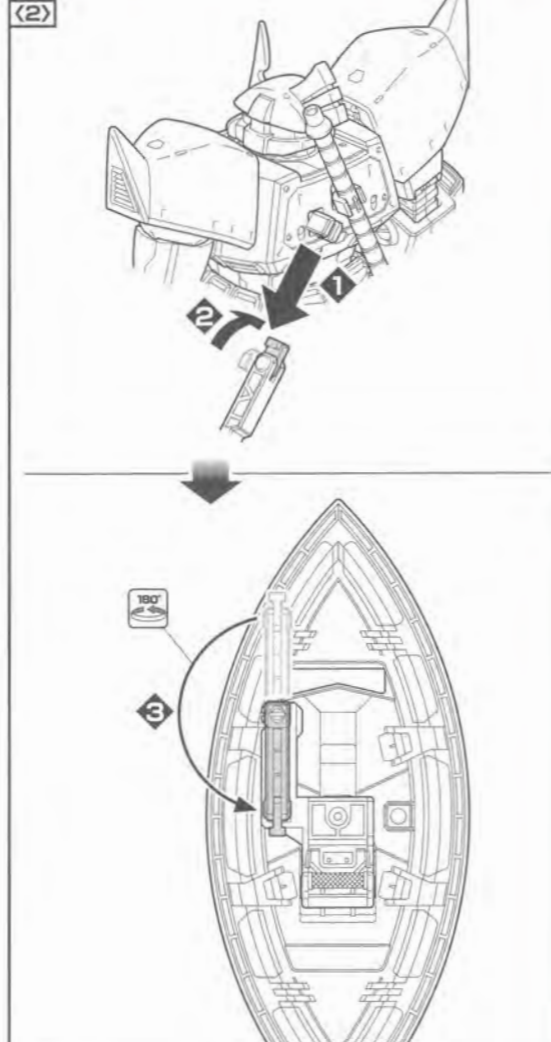
※シールドのアームを図のように回転させてください。



※グリップを持たせてから手の甲をしっかりとはめ込みます。



17 <(2)>

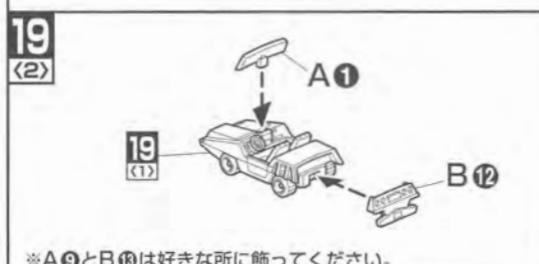
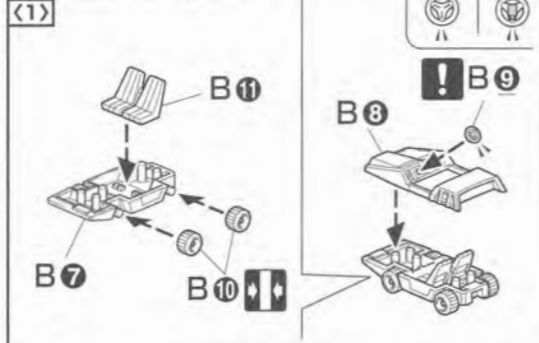


18 <コクピットハッチの開け方>

※胸部がコクピットハッチにかぶっている場合は、胸部を上へ上げてから開けてください。

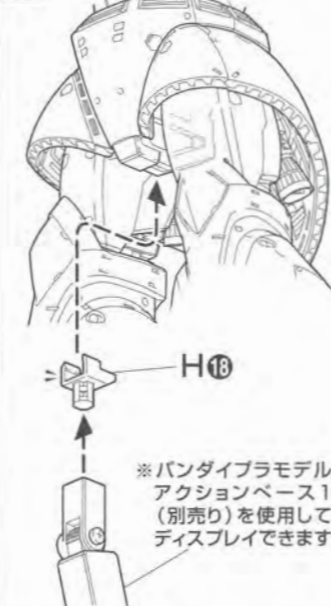


19 <(エレカの組立)>



※A①とB⑫は好きな所に飾ってください。

20 <(エレカの組立)>



※バンダイプラモデルアクションベース1(別売り)を使用してディスプレイできます。

Seal

<シール> 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。  
【例】㊸・・・マーキングシール A・・・ガンダムデカール

<ガンダムデカールの貼りかた>

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。

